

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果

各教科平均正答率

	自校	伊丹市	全国
国語	72	73	72.8
数学	62	63	59.8
英語(話すこと以外)	55	58	56
英語(話すこと)	27		30.8

伊丹市学習到達度調査

各教科平均正答率

	自校	伊丹市	目標値
社会	61.4	57.6	56.9
理科	46.4	53.6	55.4

学習状況調査

(質問番号)質問内容	* 一部文言省略	* 肯定的な回答の割合	自校	伊丹市	全国
(1)朝食を毎日食べている			90.2	92.6	93.1
(5)自分には、よいところがあると思う			70.6	75.5	74.1
(8)将来の夢や目標を持っている			64.7	66.4	70.5
(17)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか			42.8	43.5	50.4
(18)平日の授業時間以外の学習時間(1h以上)			70.7	67.4	69.8
(19)平日の授業時間以外の読書時間(30分以上)			18.1	21.9	27
(21)読書は好きですか			60.9	63.2	68
(37)授業では、課題の解決に向けて、自分から取り組んでいたと思う			60.2	66.8	74.8
(38)授業で、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う			51.1	48	55.8
(40)国語の勉強は好きだ			45.8	56.4	61.7
(49)数学の勉強は好きだ			48.9	50.3	57.9
(54)英語の勉強は好きだ			50.3	54.4	56.0

平成30年度成果と課題(H30学力向上プランから)

【成果】

今年度、全国学力・学習状況調査では、国語(A・B)、数学(A・B)、理科の全てにおいて全国平均を上回った。現中3生に関しては、入学時より高い学力を有してはいたが、授業でねらいを明確にし、内容や課題設定を工夫することで、さらに生徒の学力が向上している。また、指導形態としてペア学習・グループ学習を活用した教え合い学習の定着も、学力向上への効果をあげている。さらに、「家で宿題をしている」生徒が90.3%で、全国68.5%、伊丹市72.3%を大きく上回っており、小中連携、家庭・地域連携の成果が出ている。今後は、自分の言葉でまとめる振り返りの徹底や学習内容を深めるための話し合い活動に取り組むことで、さらに学力の向上が図れると考える。

【課題】

「将来の夢や目標を持っている」生徒が42.4%で、全国45.3%、伊丹市47.9%を下回っており、進路指導を含め各教科の授業において、キャリア教育の視点や社会とのつながり、学ぶ意義を踏まえた指導が不可欠である。また、理科に授業において、観察・実験を週1回以上実施が12.5%と、全国40.7%を大きく下回り、授業改善が急務である。

30年度学力向上プランの取組による31年度調査の成果と課題

【成果】

今年度、全国学力・学習状況調査では、数学において全国平均を上回ったものの、国語、英語において全国平均を下回った。また、伊丹市学習到達度調査では、社会において全国平均を大きく上回ったものの、理科においては全国平均を下回った。ただ、国語において無解答率が低く、相対的に記述式問題での正答率が高かったのは、毎授業での振り返りを文章で行った効果だと考える。現中3生に関しては、入学時、それほど高い学力を有してはなかったが、授業でねらいを明確にし、興味深い内容や課題設定を工夫することで、かなりの生徒の学力が向上してきた。また、ICT機器の日常的な活用や、指導形態としてペア学習・グループ学習を活用した教え合い学習の定着も、学力向上への効果をあげている。「1、2年の授業で週1回以上PCなどのICT機器を活用した」生徒が84.2%、全国30.6%、伊丹市39.5%。今後は、基礎基本の徹底と、自分の言葉でまとめる振り返りの徹底や学習内容を深めるための話し合い活動に取り組むことで、さらに学力の向上が図れると考える。

【課題】

数学における思考力・判断力・表現力を育成する授業、英語における4技能が統合され授業、即興で応答できる力を育成する授業実践が必要である。また、全教科共通して、好きにさせる授業のしかけが必要である。「将来の夢や目標を持っている」生徒が64.7%で、全国70.5%。「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒が42.8%、全国50.4%。いずれも全国平均を下回っており、進路指導を含め各教科の授業において、キャリア教育の視点や社会とのつながり、学ぶ意義を踏まえた指導のさらなる充実が不可欠である。さらに、理解していないところをわかるまで教えているかについての平均も全国より16.9ポイント下回っていることは大きな課題である。

平成30年度改善策(H30学力向上プランから)

【平成30年度学力向上の具体策】

- ①学習規律の徹底 チャイム席・私語ゼロ・忘れ物ゼロの徹底・正しい姿勢の徹底(10月から強化月間で徹底する)
- ②ICTの活用推進と設備の充実
- ③授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進
- ④学力調査の分析に基づく学習指導の実施とねらいを明確にし、振り返りを行う学習活動の徹底(流れのパターン化と振り返りの徹底)
- ⑤チーム学習や教え合い学習など指導形態の工夫(話し合いの手法の統一)
- ⑥ノート指導の徹底と板書・発問の工夫
- ⑦3年生数学での習熟度別学習の実施
- ⑧数学の全学年教え合い学習「笹トレ」(月曜7校時)による学力定着
- ⑨放課後学習(水曜)全学年英語、数学
- ⑩土曜学習の充実
- ⑪家庭学習の習慣化(毎日・週末)
- ⑫英検等の検定取得の推奨
- ⑬学校図書館の活用と読書量の増加
- ⑭笹手帳の活用による生活習慣(朝食・学習等)の改善
- ⑮コミュニティ・スクールによる地域、家庭との連携強化
- ⑯授業評価アンケート実施
- ⑰サクセスノートの導入
- ⑱指導案にキャリアの視点を取り入れる

平成31年度 改善策

【平成31年度学力向上の具体策】

- ①学力調査の分析に基づく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある授業のねらいを明確にし、振り返りを行う学習活動の徹底(キャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力を意識化)
- ②チーム学習や教え合い学習など指導形態の工夫・充実(意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な話し合いの手法の統一)、笹トレの手法を各教科でフル活用
- ③ノート指導の充実と徹底
- ④課題設定・発問・板書の工夫(考えたくなる課題・発問の設定)
- ⑤ICTの活用推進と設備の充実(iPadのフル活用)
- ⑥授業のユニバーサルデザイン化の一層の推進(視覚・聴覚・体感)
- ⑦学習規律の徹底(チャイム席・私語ゼロ・忘れ物ゼロ・正しい姿勢の継続)
- ⑧1年生数学での習熟度別学習の実施
- ⑨2・3年生数学、1年生英語での同室内複数指導の実施
- ⑩数学の全学年教え合い学習「笹トレ」(水曜7校時)による学力定着
- ⑪放課後学習(水曜)全学年数学・英語などの実施による学力補充
- ⑫土曜学習の充実(9月から月2回程度全14回実施)
- ⑬「サクセスシート」(授業の振り返りシート)の充実・習慣化の継続と主体的家庭学習への連動
- ⑭英検・漢検・数検等の検定取得の推奨
- ⑮学校図書館の活用と読書量の増加
- ⑯笹手帳や笹中学校区3校合同生活点検週間の活用による生活習慣(朝食・学習等)の改善
- ⑰コミュニティ・スクールとして、地域、家庭との連携強化

各教科の分析に基づいた具体的取組

	1年	2年	3年
国語	・振り返りシートを授業で①わかったこと、②わかりにくかったこと、③もっと聞いてみたいことの欄を作って自分の言葉で説明できる力をつける。 ・思考ツールを使用して、自分の考えや意見を相手にわかりやすく発表できるようにする。 ・教科書の文章教材で、汎用的な読む力を養う。	・ICTの効果的な活用について授業アンケート結果が前年度より下がっている為、資料の提示だけでなく効果を検討してICTを使用する。 ・作文の書き出しやまとめ方に難しさを感じる生徒が多いので、書き方の指導を授業で定期的に取り入れる。	・思考ツールを自分たちで選択して使用するという取り組みを通して、文章の情報を整理して内容を捉える力をつける。 ・めあてを理解しやすいものにして、将来どのように役立つかを意識づける。
数学	・振り返りシートを書くことで、自分の考えをまとめ表現する力を養う。 ・数学的用語で説明する機会を増やす。 ・グラフ、図形などの視覚的に捉えやすい教材は積極的にICT機器を利用していく。	・ふり返りの記入を丁寧に行うように、授業で指導する。 ・グラフや図形分野で、ICT機器を効果的に使用する。 ・実生活において、数学の有用性を感じられる教材の検討。	・振り返りシートを用いて授業のまとめをさせることにより、記述問題の無解答率が減少してきたので、継続して行っていく。 ・グラフ、図形などの視覚で捉えやすい教材は積極的にICT機器を利用していく。 ・「なぜそうなるのか？」を大切にして、授業の仕掛けを考え、思考させる授業をつくっていく。
社会	・テスト対策の学習時間やテストの答え合わせに笹トレの教え合い学習の手法を取り入れる。 - 例)時差や地形図、雨温図の読み取りなど ・ニュースウォッチや論文発表会など自分の考えをまとめ、相手に伝える工夫を行う授業に取り組む。	・ICT機器の効果的な活用を行う。 ・テスト対策の小テストなどを行い、基礎的・基本的な重要語句の練習を繰り返し行う。	・ICT機器の活用と基礎的・基本的な重要語句の練習を家庭学習において取り組ませる。 ・歴史は繰り返す事、そこから読み取れる処世術などを工夫した授業づくりを行う。 - 例)敵の敵は味方:日英同盟など
理科	ノートやプリントにまとめを書く場所を多く設ける。授業に余裕を持たせたうえで話し合いができる機会のある授業をする。ICT機器を生徒が活用するような授業を考える。	生徒の興味関心を高め、より確実に定着させていくための、ICTの活用や発表の機会の設定などをしていく。	・生徒が興味をひくめあて、理解しやすいめあての提示をする。 ・基本的な語句を毎週の小テストを通して得点率をあげていく ・身近な現象と理科との関連性を主体的に考えさせ、それを応用した問題の読み取りができるような工夫をする。
英語	授業のめあてと振り返りシートが繋がっていることを実感できるようなシートにする。また、key sentenceを振り返りシートに書かせたり、自己表現活動をさせる。warm upやactivityの中での自己表現や会話練習をより充実させる。	授業アンケートの中で見られた課題として振り返りの時間の確保があがる。授業のwarm up活動に時間を多く割いているため、1学期よりも短くし、その時間を振り返りの時間に充てる。	振り返りシートでは文法の取り組みだけでなく、本文の内容も振り返ることができるようなシートに改善をしていく。